



天上はるかに

秋田高校東京同窓会会報

2015年11月
錦秋号

秋田高校東京同窓会

〒106-0032
東京都港区六本木 5-16-5
インペリアル六本木 1001
鎌田会計事務所内
TEL 03-5545-7775
FAX 03-5545-0087
http://www.shuko-ob.net/

2016年1月23日(土)

大学生との交流会 >> 13:00 ~ 新春賀詞交歓会 >> 16:30 ~

同窓会の集まりで気持ちが一番盛り上がるのは何だろう。同期同級の懐かしい顔が見られる、各界で活躍する同窓の方々にお会いできる……。もちろんそうしたこともあるけれど、出席者全員揃って盛り上げられることといえば、“皆で校歌を歌う”に勝るものはないように思う。母校で時を同じくしたわけでもないあの人もこの人も声高らかに校歌を歌う時の雰囲気、あの一体感は何ともいえない。

さて、まもなく2016年。年明け後の1月23日に恒例の「大学生との交流会」「新春賀詞交歓会」を開催いたします。

ぜひご参加いただき、母校校歌「天上はるかに」を声高らかに歌い、新しい年をより盛り上げりのあるものにしていきましょう。

多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

※ 2016年の担当年度幹事は「6」のつく卒年のS16、26、36、46、56、H6、16卒です。参加を特によろしく。

開催要項

- 会場 …………… アルカディア市ヶ谷(私学会館) >
- 受付 …………… 12:30 ~ JR・地下鉄市ヶ谷駅より徒歩2分
- 大学生との交流会 …… 13:00 ~ 16:30
- 講演(田口大貴さん) …… 16:30 ~ 17:20
- 賀詞交歓会 …………… 17:30 ~ 20:00

◆ 当日会費 ・ 一般 = 8,500円 ・ 学生 = 4,000円

※ 同封の振込用紙にての前振込の場合は 8,000円(一般)です。

<講演者紹介>

田口大貴さん
秋高 H22年 卒

陸上・長距離選手
日立物流陸上部所属



秋高卒業後、1年間浪人の時を過ごし、平成23年に念願の早稲田大学へ入学し早大競争部へ入部。着々と実力をつけ、チームに欠かせない存在として2年時より3年連続で箱根駅伝に出場。平成25年10区(アンカー)、平成26年9区、平成27年は2度目となる10区を走った。最高順位は2年時の4位だがこの時の熊崎健人(帝京大)とのデッドヒートは箱根ファンを大いに沸かせた。4年時同部副将。早大を卒業した今年、日立物流陸上部へ。新人ながら同部レギュラーとして駅伝他の陸上競技大会に出場、長距離競技の選手として活躍している。



東京都千代田区九段北4-2-25 TEL 03-3261-9921

橋本五郎の AKITA 元気トーク



秋田高校東京同窓会 会長
橋本 五郎

利を求めぬ強さ

9月のシルバーウィークに、家族で中国地方を旅しました。初日は広島市内をバスで巡回したあと、岩国で錦帯橋を渡り、岩国城に登りました。宮島口駅近くのホテルに泊まって、翌日は宮島・厳島神社に。参道の人々の多さに驚き、世界遺産効果はかくも大きいものかと実感しました。

福山城を見て倉敷の古い街の中にある旅館に宿泊しました。大原美術館でエル・グレコの「受胎告知」を鑑賞、岡山の後樂園を歩いて、二泊三日の旅を終えました。印象的だったのは、それぞれの地で人を呼び寄せるための懸命の工夫をしているということです。地方創生は地元に住んでいる人がその気にならないと進まないことがよくわかりました。

岩国城の天守閣にいるときに、財務大臣などを務めた塩川正十郎さんが亡くなったという連絡が読売新聞の政治部からありました。「塩爺」とは政治家を辞めた後にお付き合いする機会が多くなりましたが、この人ほど「利」を求めることに少ない人も珍しいと思いました。

最晩年にも京都の古いお寺の檀家総代はじめ50以上の要職に就いていました。でも、一切報酬を受けていませんでした。お金をいただくと自由にものを言えなくなるからと言っていました。年をとったら世のため人のためを尽くすということを実践されていました。塩爺の爪のアカでも煎じて飲まなければと思いながら、冥福を祈っています。

平成27年度 定期総会・記念講演・懇親会 報告

ご報告

東京同窓会副幹事長 今野 仁 S50卒

今回総会の司会を勤めさせて頂きました、50年卒の今野仁です。今回参加されなかった同窓会の方々、また参加された皆さんには記憶の呼び戻しの意味で報告させていただきます。

16時定刻よりやや遅れて開会。今回初の試みとして秋田県民歌の斉唱を行いました。

これは、BJリーグ決勝戦(有明コロシアム)で秋田ノーザンハピネッツの応援に秋田からブースター2000人強が集い県民歌の大合唱で応援を行いものすごい盛り上がりだったことに起因しているかもしれませんが、本当に県民歌の歌詞はすばらしいものだと思います。

今後、これが恒例になればうれしいと思います。

総会は橋本会長(S40卒)の挨拶、事業報告、計画、会計報告、予算案承認、監査報告と例年通りすすみ、本部報告として伊藤成年校長(S49卒)、佐藤英明同窓会事務局長(S46卒)のお話をいただきました。

記念講演は北都銀行取締役会長町田睿様(S31卒)より秋田の現状と今後の展望ということでお話をいただきました。

秋田の地方創成、資源(人、環境)の面からさまざまなデータをもとに提言され、また北都銀行の挑戦もこれから期待されるものと思われました。

懇親会のなかで今年は甲子園にて第一回決勝戦の再現をするとの情報があり秋田高校野球部OBが結集するそうで自分もぜひ行ってみたいと思っています。

今回の出席は残念ながら100名に届きませんでした。ぜひ、みなさんのまわりの同期、先輩、後輩にお声かけいただき会の活性化にご協力お願いします。

我が50年卒も二桁出席を目指します。



平成27年6月27日/於：ハイアットリージェンシー東京



寄稿

「平成27年度 定期総会・記念講演

高橋 範慈 H16卒

この度は貴重な機会をいただきまして、改めて御礼申し上げます。

秋田高校東京同窓会へはこれまで2度参加させていただきましたが、一番の醍醐味は、「大先輩との交流」だと思います。

卒業後秋田を離れ、多種多様な環境で活躍されている方々と「秋田高校」という共通項をもってお話できることは、非常に恵まれていると感じております。

私自身、現在人材紹介業にて企業人事のサポートすることを生業としておりますが、普段の生活の中で交流できる方々は限られます。各業界の第一線の方々との共通の話題をもってお話でき、様々なご指導をいただけることは、非常に貴重であると実感しております。

また「故郷を知る機会」であることも大きな魅力のひとつです。

校長先生から後輩の活躍をお聞きできることは自身の鼓舞になりますし、先日の北都銀行町田睿会長の講話にてお伺いした北都銀行の現況と今後の取り組みは、今後の秋田の展望を示しており、大変勉強になりました。

秋田経済のキーマンとして活躍されている方が多い秋田高校OBの方々だからこそ、このような貴重な機会をいただけていると思います。

所属していた硬式野球部の先輩後輩とも久しぶりに再会し、ともに秋田高校の卒業生である絆と誇りを確かめ合うことができました。

今後も積極的に参加したいと考えております。引き続き宜しく願い申し上げます。

阿部 新 H13卒

事務局からご案内をいただき、総会に初めて参加しました。卒業から14年が過ぎ、手形山の「シューコー」とはすっかり縁遠くなっていたところ、学校の様子を聞いたり、校歌を口ずさんだり。懐かしい思いに浸った約4時間。会を改めて振り返ると、私にとっては、月並みな表現ですが、二つの場であったように思われます。

一つは「出会いの場」。仕事でも、友人でもない人間関係を築くことが大切と言われるけど、でもどうやって？そんな思いを抱いていた中、年代や職業など背景の異なる諸先輩とお話や名刺交換ができたことは、その「よすが」が得られたようで大変有意義でした。商業色の強い異業種交流会だと、どうしても利害が付きまといがち。一方と他方を「目的-手段」としない人間関係は、のびやかで、居心地の良いものでした。

いま一つは「学びの場」。日ごろ不勉強なことが多く、町田会長による秋田県の現状に関する講演は、特に興味深く拝聴しました。地域活性化を目指す有識者会議「あきた創生アドバイザーボード」の創設など、初めて耳にする言葉も少なくなく、各所での取り組みが俯瞰できました。また、懇親会の中でも、仕事に対する考え方や生き方など雑談から得るところがあり、自分の立ち位置を認識、将来について考えるきっかけとなりました。

最後となりますが、本会の開催にあたって尽力された役員・幹事の皆様に感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

佐々木 孝広 H11卒

東京同窓会定期総会には、一昨年から3年連続3回目の出席となります。一昨年は同期と一緒に参加しましたが、昨年と今年と一人での参加となりました。小心者の私は、知っている人がいなかったらどうしようかと都庁前駅のホームに降りた瞬間から“ドキドキ”しながら会場に向かうのですが、一步会場に足を踏み込むと多くの方々から声をかけていただき、一瞬にして“ドキドキ”も吹っ飛んでしまいます。いつもながら東京同窓会の温かさを感じております。

現在、国や地方自治体等の公共セクターをクライアントとしたコンサルタントとして、地方創生の関係で、東北地方の人口1万人も満たない自治体の総合戦略策定のお手伝いをさせていただいております。今回は、町田会長から秋田県内の現状分析や総合戦略策定に関する動向について、貴重なお話をお聞かせいただくことができ、また、懇親会でも諸先輩方とも色々とお話をさせていただき、公私ともにためになるアドバイスをいただき、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

ただ、私は、根っからの小心者ですので、毎回、東京同窓会の温かさを感じながらも、おそらく賀詞交歓会、来年度定期総会も一緒に行く仲間がいないと、会場まで“ドキドキ”しながら向かうことになると思いますので、まずは一緒に行く仲間を増やさなければと感じております。あわせて、今回のこの原稿の入稿が遅くなり、鎌田幹事長にご迷惑をおかけしたことを反省し、同窓会の運営の方でも微力ながらお手伝いさせていただければなと思っています。

神谷 了 H9卒

私が秋田高校の東京同窓会に参加させて頂くようになったのは、数年前、後輩から声を掛けてもらったことがきっかけです。多士済々の素晴らしい先輩方が参加されており有意義な会であることを約束すると誘われ、それではと参加したのが始まりだったことを覚えております。

私は硬式野球部のOB会である東京矢留会にも所属しており、日ごろ鎌田進幹事長には会のサポートを頂いております。ご支援をいただいている分、母校同窓会でも盛り上がりの一翼を担えればと思い今回参加させて頂きました。

同窓会では橋本五郎会長、鎌田進幹事長、伊藤成年校長先生、そして記念講演を頂きました町田睿先輩をはじめとして、偉大な先輩方と一緒にさせて頂きましたこと、また、野球部の後輩と思いがけず再会することができたこと大変感謝しております。また、大橋朗先輩が変わらず豪放磊落であったことにも安心いたしました。

さて、今年は12月19日(土)、20日(日)に阪神甲子園球場において、第一回甲子園大会の再現大会が行われます。第一回大会の参加校である母校におきましては、現在OBを対象に参加者を募っております。集合は金曜日の夕方という社会人にとっては厳しい日程であるにも関わらず、すでに70名を超える参加希望者がいるようです。

100年前の偉大な先輩方に感謝しながら、再現大会では秋田高校の伝統を示していきたいと思っております。

阿部 充 S58卒

今年度、初めて定期総会・記念講演・懇親会に参加させていただきました。

秋田高校を卒業して、気が付けば、30年を経過してしまいましたが、東京の大学に進学し、その後、東京で就職したばかりの頃は、仕事を覚えることに精一杯で、秋田や高校時代を懐かしむことや、同窓会について、考えも及ばなかったところでした。

数年前に、東京同窓会の役員の方々にお会いする機会に恵まれ、お話を伺い、東京同窓会の行事への参加のお誘いをいただいていたところでした。

今回、定期総会に参加させていただいて、改めて、秋田高校同窓会の人材の豊富さ、年代を超えた縦のつながりの強さ、同期・同年代の横の広がりを感じ取りました。また、これまでの仕事を振り返ってみると、仕事のポイント・ポイントで、お世話になった方々は、秋田の人であり、高校の先輩方であったと思います。

総会では、気づかないまま(先輩、申し訳ありません)お世話になっていた先輩方にお話を伺うことができたことが、大変嬉しく思いますし、多くの先輩・後輩にもお声をかけていただき、大変楽しい時間を過ごすことができました。今後は、先輩から頂いたご厚情を、多くの後輩に伝えていきたいと思っております。

多くの同窓生の参加により、秋田高校同窓会の強みを更に磨き上げ、東京同窓会がますます発展することを祈念しています。

「懇親会」に参加して

目黒 卓 S47卒

今回、卒業してから43年が経ちますが、初めて秋田高校東京同窓会に参加させて頂きました。

そもそも定期総会に参加したきっかけは、鎌田幹事長、今年が、秋高同窓会(本部)設立100周年だと教えられた事に依ります。

初めに、町田会長(本部)の特別講演を拝聴しましたが、秋田県のかかえている諸問題を大変わかりやすく的確に講演され、関東在住の自分も故郷に何かできることがあれば、応援していきたいと感じました。特に、ビジネスチャンス(新エネルギービジネス等)は、強く興味を引きました。

その後、橋本会長、先輩、後輩の方々が、貴重なお話をされまして、今回の参加が大変有意義であった事を、実感しました。

又、多数の方々と名刺交換をさせて頂きましたが、先輩の皆様が、人生に目標を持って前向きに過ごされている事に、感銘しました。後輩の方々も会社を立ち上げられて、経営者となり、地元のためにベストを尽くされている姿を拝見し、自分ももう少し頑張りたいと思いました。

そして、30歳代の多数の後輩も参加し、幅広い年代層の同窓会であると感じました。

今回初めて参加し、さまざまな職業の人達と語り合うことができ、人脈形成ができた事を大変感謝しています。

今後の秋高東京同窓会のますますの発展を祈っております。

声

秋田県副知事

堀井 啓一 S46卒



去る9月25日、(株)フジクラの社長、会長を務められた加賀谷誠一さんのお別れの会に参列させて頂いた。秋田中学を昭和17年に卒業された大先輩です。

社長在任中に、秋田市御所野に東北フジクラを設立して下さり、現在では700人もの雇用を創っていただいている、秋田にとっての大恩人でもあります。

激務の傍ら、全日本剣道連盟副会長を長く務められたことなどは、まさに、秋田高校の伝統を体現された方と言ってよいと思います。

お別れの会の会場で、加賀谷さんが若き日を振り返って、「秋田中学には、天王地区から一人だけの入学で、他の学生が皆、自分より優秀に見えた。」と、書かれた文章を拝見して、いつの時代も同じだな、加賀谷さんのような方でも、そんなことがあったのかと、妙に納得しながら、懐かしさのようなものを感じずにいられませんでした。

今年の夏は、甲子園が100回目を迎え、開会式では第一回大会の準優勝校として秋田高校の主将も行進に参加しました。その開会式のあいさつで日本高野連の奥島会長が「決勝で敗れたりとはいえ、彼らの潔い態度はその後の高校野球の方向性を決定した」と、話されたのを聞いた方も多かったと思います。

私も「そうか、そうだったか、いや、そうであったに違いない」と、一人でうなずきながら、熱くこみあげてくるものを押さえることができませんでした。

秋の高校野球県大会では、母校が18年ぶりの全県優勝を果たしてくれました。東北大会でも激戦を勝ち抜いて、ぜひとも甲子園への出場権を獲得し、第一回大会以来の伝統が、今も引き継がれていることを、全国に示してほしいと切に願っています。

大先輩・大先達の方々の長年にわたる貢献があり、後輩たちの素晴らしい活躍がある。自分も、もっともっと頑張らなければと思わずにられない、この夏、そして秋となった。

特別寄稿

秋田創世への挑戦

株式会社北都銀行 常務執行役員 進藤 勝実 S50卒

地域での新しい産業・事業創出のプロデューサーとなり、新たな雇用の創出や交流人口の増加を通じて、地域経済の発展に貢献する。これが、北都銀行が平成25年3月に作成した第二次中期経営計画のメインテーマでした。以降継続して、人口減少と高齢化が進む秋田を元気にするため、新エネルギー・アグリ・シニア・グローバルの四つを柱として取り組んできました。昨年には、通称「増田レポート」が公表され、地方創生というキーワードが一気に注目されることとなりましたので、これまでの取組を更に加速させ、秋田創生への挑戦を続けていきます。

いくつか取組の内容を紹介させて頂くと、新エネルギー分野では、風力発電事業会社(株)ウェンティ・ジャパンを設立しました。現在33基の風車案件を開発中です。関連して、風力発電コンソーシアム「秋田風作戦」を設立し、部品製造やメンテナンスの地場産業化を目指しています。秋田の風資源を秋田の産業に活かすための取組です。また、森林資源を活用したバイオマス発電プロジェクトにも参画し、発電所で25名の直接雇用を新規創出するほか、森林資源の整備やチップ工場の新設および運搬事業等の関連産業で120名の雇用効果を見込んでいます。

アグリ分野では、(株)あきた食彩プロデュースを設立し、加工・流通までの六次産業化をサポートしています。秋田の農業産出額が低調である大きな要

因は、稲作へ過度に依存している産業構造と加工による付加価値の創出が不足していることであり、付加価値の創出と販路開拓にチャレンジしています。シニア分野では、研究会を組織し、高齢化や人口減少といった課題先進県だからこそ出来るビジネスモデルの構築を目指し、介護だけではなく、流出した県民を定年後にアクティブシニアとして迎え入れるCCRC構想まで展望し活動を行っています。

グローバル分野では、アジアを中心に8カ国9つの外銀提携を活用しつつ、バンコクと台北に海外駐在事務所を設け、県産品の輸出・現地生産拠点設立・インバウンド観光の誘客等をサポートしています。

ここまで、北都銀行の挑戦を紹介させて頂きましたが、地方創生の主役は決して銀行ではありません。地元事業者や地域住民の全てが主役です。どれだけ多くの方が、他人事ではなく自分事として、ふるさと秋田の事を思い行動を起こすかが、秋田創生のカギを握っていると思います。余談となりますが、年に一度しか秋田に帰ってこないところを、同窓生と酒を酌み交わすために年に二度帰ってくる。これも交流人口の増加という観点で立派な地方創生への貢献になります。秋田高校OB・OGの皆様には、自ら故郷に足を運んで頂くとともに、故郷応援団として、秋田の良さをPRして頂けます様お願い申し上げます。

● 同期会だより

第一回は35年前の神田の蕎麦屋 千秋会/昭和44年卒 東京同期会

尾形 均 S44卒



35年前、神田の蕎麦屋で一回目の同期会が開かれた。

神田で老舗の其処を誰が選んだのか、我同期も粋なことをするものと思った。

司会の挨拶が始まって暫くの時間は見合いの席のようであったが、そこは秋田県人。乾杯の儀式が済み空気が和むと談論風発、口滑らかに友好、親密が増して、校歌を歌い再会を約束した。

それから暫くの間は出たり入ったりで二十名ほどの同期会も、ここ数年は秋田からの加勢もあり四十名を超えている。医者、弁護士、教授など巷に名を馳せている者もいるが、未だ生活の定まらぬ者もいる。

そこには世間的身分の違いがあっても、威張る者はいないし卑屈になる者もない。そこが秋高の良さであり誇るところだ。

二回目の開催で、この会を「千秋会」と称するようになり、持ち回りの幹事が日程・場所等を決めていたが、5～6年前から開催日(毎年十月の第三土曜日)、幹事、会場とも固定されつつある。

千秋会の盛り上がりこの男を語らなくてはならない。

大川 成司 軽音楽同好会。

<https://www.facebook.com/seiji.okawa>
印刷工場の社長と薬剤師の二足の草鞋を履いていたが、先を見越して薬剤師に専念。

好事魔多し。

たまたまの検診で白血病が発覚し、即刻入院することになった。

入院生活が長くなり大川は死を覚悟した。病床で天井の蛍光灯だけを見ている毎日の中で来し

方を顧みると、俄かに秋高で過した日々が浮かび上がって来る。懐かしくあり、高じて森羅万象に謝し、それをどうしても皆に告げたくなった。

大川は医者から外出を禁じられていたが、「仲間に出会えるのであればもう死んでもいい！」病院を抜け出し千秋会に足を運んだ。

キャリアに酸素ボンベ、鼻に管を差込み、顔はといえば抗がん剤の所為でドス黒く腫れ上がっていて髪の毛はない。大川だと思って見れば大川だが別人だ。

松葉杖でようやく身体を支え、喘ぎながらも仲間に自分の思いを伝えた。挨拶を聞いていた鎌田は、感極まって涙を流しながら大川に抱きついて行った。

一寸先に光。

いっとき、死を覚悟した大川であったが、千秋会のご利益が利いたのか、命が繋がった。一旦諦めた命も繋がってみると欲が出るものだ。

昔取った杵柄で大川は「次回の千秋会でエレキギターを演奏しよう」と当時の軽音楽同好会のメンバーに声を掛けた。メンバーに否はない。

大川は千秋会に出てバンド演奏することを目標にして先の一年を生きようと思った。

それからと言うもの、それこそ同好の誼でカラオケボックスで、はたまた貸スタジオで練習を重ね音を合わせた。

一年後の千秋会。

一瞬の静寂の中にドラムの撥が、カッ、カッ、カッ。3回を合図にジャジャ、ジャジャと全部の楽器が呻りを上げた。ベンチャーズのパイプライン。

試験に追われた日々、クラス対抗、学園祭、

日本海に沈む夕日を手形山から眺めたシーン・・・が蘇る。

リード徳夫、サイド岩田、ボーカル康隆、ドラム早川、パーカッション久米、ベース大川でベンチャーズとビートルズ。

飛び入りで早川婦人。この方はプロのジャズピアニスト。

「泰子ちゃんにピアノを弾かせると出演料が発生するからエレキピアノに触ってもらった」と康隆。チャッカリしているのである。

泰子ちゃんには「同窓であるから・・・」と薔薇ひと束でお茶を濁した。泰子ちゃんが苦笑した。

第二部は田口のピアノ、藤田のクラシックギターでノクターン。

田口は石油採掘の技術者、藤田は船舶会社勤務だが、「ふたりとも本業以外で稼いでいるだろ！」と野次が飛ぶほどの演奏振り。

楽屋雀によれば、田口と藤田は銀座のクラブで時々演奏しているのだとか。

この手の会は初めは新鮮で誰もが昂揚するが、回を重ねるにつれ面白みに欠け色褪せるものだ。千秋会は色褪せていない。

世の中に何が起きるかは図り難いもので、偉丈夫で通った名ピアニストの田口がこの夏に急逝した。他に徳夫、ブラバンの木村・・・は入院、手術などなど。

齢65にして振り返って見れば、秋高で過した3年間がいやに懐かしい。

この夏もいつしか過ぎて、千秋会を前に誰彼と連絡が行き交う頃になった。

元気な姿で再会しよう！

S44, S55 東京同期会

昭和55年卒 東京同期会

佐藤 研 S55卒



本年7月4日、昭和55年卒の私たちは卒業後35年にして、初の同期会を開催しました。35年ぶりとなったのは卒業後の各々の人生と、時間の巡り合わせでしょう。「母校の誉れを広げよ四方に」を地で行き、全国、世界に活動の場を広げている皆の都合を考慮して秋田と東京(芝パークホテル)に会場を確保し、ネットを使った2次元中継のまねごとなども実施しました。すると、今年の開催が必然であったかのように、全体で110名(東京58名)を超える盛会となりました。

東京会場では、スライドショー(在学時の淡い思い出の再現を現校舎にて撮影)、軽音楽同好会からプロに進んだ西山史翁さんのギター演奏、我らが応援団長、保坂尚吾さんと団員の栗山誠一さんらのリードで校歌斉唱(リード役は学ランとセーラー服で登場!)などの企画もあり、あっという間の2時間でした。

私は3別のおかげで、女子との接点が極端に少ない3年間でしたので、今回参加された多くの女性とはほぼ初対面だったのですが、すぐに打ち解けて昔話のオンパレード。懐かしさに新鮮味を加えて大変楽しい時を過ごすことができました。

企画当初は皆の連絡先がわからず、年賀状や、ネット、部活のOB会繋がりなどを頼りに少しずつ輪を広げ、大勢が集まることができました。今後もこの輪をさらに広げ増やしていきたいと思っています。

今回の盛会ぶりに勢いづき、東京の関係者は勝手ながら次回を2016年7月2日(土)、新年会を2016年1月16日(土)~17日(日)に予定しております。

今では秋高の生徒構成が男女ほぼ同数で全クラスが男女共学との事です、私たちの世代は男子が圧倒的に多く、「パンカラ」の文化を残していました。AからJの10クラスのうち、4クラスが男女共学、1クラスが理数科、残る5クラスは男子クラス(通称「別学」)でした。そして3年間別学で過ごすことを、尊崇とある種の哀愁を込めて「3別」と呼びました。

● 支部だより

秋田高校同窓会 茨城秋高会

茨城秋高会紹介

柴田 久志 S34卒

茨城秋高会の設立は平成3年です。秋高同窓会本部は水戸一校同窓会(知道会)が110周年記念事業として秋田に移封された「佐竹」との歴史的繋がり、母校が共に県内での古い伝統高であること等から「本校同窓会との姉妹提携」の企画・提案があり、秋田市での協約書の締結に始まります。

秋高同窓会本部は早速茨城在住の秋高同窓生にこのことを知らせると共に、茨城に同窓会結成の働き掛けがあり、支部の側面を具えるものの独自性を持った「茨城秋高会」の誕生となりました。毎年9月第1土曜日を定例総会と定め毎回来賓として秋田本部・知道会役員の出席を頂きながら開催して参りました。

平成7年同窓有為者の講演を企画し、29年卒塚本隆久元林野長官からその専門分野の講演を頂きました。講師を囲んでの懇親会には、初当選直後の橋本昌茨城県知事(水戸一校卒)も駆けつけ、佐竹秋田移封時の「秋田おぼこ」の由来や両県の「同地名」の関連にまで話が及び成功裡に。

以後、36卒佐々木毅氏 38卒高田斉氏 29卒阿曾村邦昭氏 29卒伊藤隆氏 26卒佐藤直宜氏 29卒石見谷建志氏 38卒佐々木博章氏 40卒現東京同窓会会長橋本五郎氏 17卒田村鐵男氏 20卒山谷浩二氏の各氏から有意義な御講演を頂き、御礼申し上げる次第です。

その出席者のスナップ等につきましては「茨城

秋高会のホームページ」をご覧頂ければ大変在りがたく思います。

平成20年のデータでは、茨城在住同窓生は約200名。平成22年宿泊総会通知100名(住所判明者)に送付。返答70名。うち出席者14名。しかも常連メンバーで高齢化。茨城県内在秋田他高校も同様とのことでした。

今、在茨城秋田県人連合らしきものの立ち上げを手掛けていますが、公共交通事情等悪化からかなり厳しい状況下にあります。

また、児玉大先輩の指摘もあった秋田移封前の「佐竹氏」の検証を考えたい。佐竹氏本拠地常陸太田市と秋田移封後同市「西山荘」に隠居した「水戸黄門」の民衆との交わりと水戸徳川家200年の安寧の関わりを訪ねたいとも考えておりますが、現地にはその痕跡が在りや無や?

故郷秋田と茨城との歴史的繋がりなどから御興味がありましたら、何なりとお申し出下さい。

